

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

平成22年度技術情報第1号(イチゴのうどんこ病)について(送付)

下記のとおり情報を取りまとめましたので送付します。

イチゴのうどんこ病が親株床で発生しています。今後発生が増加すると予想されますので、防除対策を徹底してください。

- 1 農作物名 イチゴ
 2 病虫害名 うどんこ病(親株床)
 3 予報内容
 (1) 発生地域 県本土
 (2) 発生量 多
 4 情報の根拠

- (1) 4月1日～5日の調査では、発生ほ場率が69%と高く、発生程度の高いほ場が認められた(表1, 図1)。
 (2) 例年, 収穫後期にうどんこ病が多発すると育苗ほでも発生が多くみられる。

地域名	調査ほ場数	発病程度別ほ場数				調査地点	
		甚	多	中	少		
日置	5	1	2		2	5	日置市伊集院町
川薩	4				2	2	さつま町湯田
曾於	4				2	2	志布志市有明町
計	13	1	2		6	9(69%)	

注) () は発生ほ場率

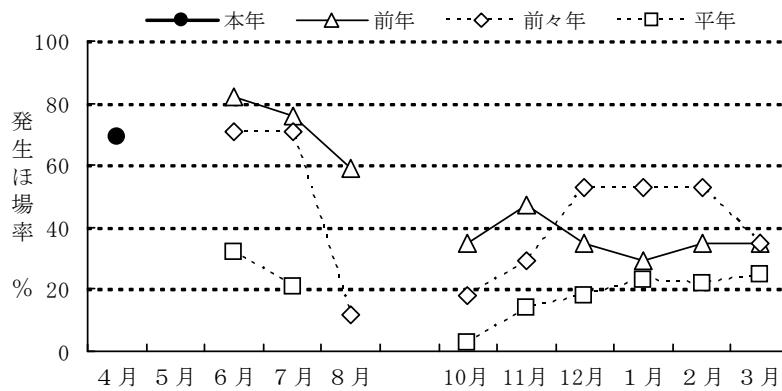


図1 うどんこ病の発生ほ場率(イチゴ)

5 防除上注意すべき事項

- 本病が発生しやすい葉裏をよく観察し、早期発見と早期防除に努める。特に前作で多発したほ場から採苗した親株床では注意する。
- 雨よけハウスでは発生が多くなる傾向にある。
- 薬剤は、葉裏や下位葉に十分かかるよう散布する。展着剤を加用する場合は、薬剤との組み合わせにより薬害がでる恐れがあるので注意する。
- 薬剤によっては感受性が低下している可能性があるため、散布後は防除効果を確認する(使用薬剤については表2参照)。
- 発病葉や古葉は除去し、ほ場外へ持ち出して処分する。
- 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。

(参考)

表2 主なイチゴうどんこ病の防除薬剤

平成22年4月12現在

系統名	薬剤名	希釈倍数 (倍)	収穫前日数 ・使用時期	使用回数	予防	治療	炭疽病 登録	備考
グアニジン系	ベルコートフロアブル	1,000	育苗期(定植前)	5回以内	○		○	
		2,000~4,000	収穫前日まで(生育期)	2回以内				
有機銅剤	サンヨール	500~1,000	収穫前日まで	6回以内	○			
アニリノピリミジン	フルピカフロアブル	2,000~3,000	収穫前日まで	3回以内	○			
グアニジン系+ アニリノピリミジン	ダイマジン	2,000	収穫前日まで	2回以内	○			
無機硫黄	イオウフロアブル	500~1,000	—	—	○			野菜類登録
チオフェン系	アフエットフロアブル	2,000	収穫前日まで	3回以内	○			
微生物剤	ボトキラー水和剤	1,000	発病前~発病初期	—	○			野菜類登録
	ボトピカ水和剤	2,000~4,000	発病前~発病初期	—	○			
	タフパール	2,000~4,000	発病前~発病初期	—	○		○	野菜類登録
	バイオトラスト水和剤	1,000~2,000	育苗期~収穫前日まで	—	○		○	
EBI	ラリー乳剤	5,000	収穫前日まで	3回以内	○	○		
	トリフミン水和剤	3,000~5,000	収穫前日まで	5回以内	○	○		
	バイコラル水和剤	5,000	収穫前日まで	3回以内	○	○	○	
	サブロール乳剤	2,000	収穫前日まで	5回以内	○	○		
	ルビゲン水和剤	4,000	収穫前日まで	3回以内	○	○		
	スコア顆粒水和剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	○	○		
	サンリット水和剤	2,000~4,000	収穫前日まで	3回以内	○	○	○	
EBI+その他	パンチョTF顆粒水和剤	2,000	収穫前日まで	2回以内	○	○		
ストロビリン系	アミスター20フロアブル	1,500~2,000	収穫前日まで	苗床: 4回以内 本圃: 3回以内	○	○	○	
	ストロビーフロアブル	3,000~5,000	収穫前日まで	3回以内	○	○		
キノキサリン系	モレスタン水和剤	3,000~4,000	収穫前日まで	2回以内	○	○		
抗生物質	ポリオキシシAL乳剤	1,000	収穫7日まで(施設栽培)	5回以内	○	○		
			収穫3日まで(露地栽培)					
炭酸水素塩剤	カリグリーン	800~1,000	収穫前日まで	—		○		野菜類登録
	ハーモメイト水溶剤	800~1,000	収穫前日まで	—		○		野菜類登録
天然物+無機銅	ジーファイン水和剤	750~1,000	収穫前日まで	—		○		野菜類登録

注) 詳細については平成22年度農業使用の手引き(野菜編)P166~168, P174~175を参照する。

使用する際は、農林水産消費安全技術センターホームページ(農薬登録情報検索システム)で確認する。

※イチゴ栽培における使用回数のカウントは、親株からランナーを切り離れた時から収穫までをカウントするので注意する。

○うどんこ病の発生状況(平成22年4月5日撮影)



左: 葉裏に発生しやすい



右: 親株床で激発すると葉先がスプーン状にロールし、ランナーにも発病する